

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成28年12月分）

【景況感】

景気回復に足踏み感が見られる。

【製造業】生産、受注は持ち直しを見せはじめている

○製造業は、一部の業種で生産の弱含みが見られるものの、輸送機械（主に自動車産業）、プラスチックを中心に持ち直しの動きが見られ、生産は前年同月水準まで回復しつつある。

【地場産業】依然として厳しい状況が続いている

○地場産業は、円高トレンドから一転、円安に振れ、原材料費の高騰が懸念されるのに加え、依然として消費マインドの減退や海外製品との競合など厳しい状況が続いている。

【個人消費】消費は持ち直しの兆しが見え始めている

○個人消費は、大型小売店等の売上前年比増減率が足下、前年同月比プラスとなり、新車販売台数についても持ち直しが見え始めている。但し、実質賃金の増加が期待できないことから節約志向が続き、長期的にみると消費回復への足取りは重い。

【観光】観光客数、宿泊客数はともに減少している

○観光は、催事の減少に加え、中国・台湾をはじめとしたアジアからの観光客の勢いに陰りが見られ、前年同月に比べ、観光客数・宿泊客数ともにやや減少となる。

【雇用】雇用情勢は回復基調にある

○雇用面では、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、全国と比べても良好な数値であり、総じて県内の雇用情勢は回復基調にある。但し、多くの業種では人手不足感が拡大しており、求職と求人のマッチングが今後の課題である。

【設備投資】投資意欲は減少する一方、投資実績は上向いている

○設備投資の実施は、年初から上昇が続いている一方、設備投資意欲は、減少が続いている。設備投資の目的は、依然として工場・機械等の「補修・更新」がメインとなるが、人手不足を解消するための「合理化・省力化」も増加傾向にある。

【資金繰り】資金繰りは悪化傾向、借入難易感も低下している

○企業の資金繰りは、製造業・非製造業ともに年央から悪化傾向にある。借入難易感は、ここに来て製造業の低下が目立つものの、全体としてはプラス圏を堅持している。